

NGP協同組合、全国8ヵ所で水没車の引き取りを開始

NGP が一致団結し、被災車両の引き取りなどで復興支援

2019年は多くの災害に直面した年になりました。8月上旬の佐賀、長崎県を中心とした九州北部豪雨に始まり、同月中旬には広島県に台風10号が上陸し、9月には千葉県を中心に大きな被害が出た台風15号、そして10月には台風19号が関東、甲信越、東北地方の広範囲に甚大な被害をもたらしました。

先日、アメリカの格付け会社が台風15号、19号の被害による損害保険会社の保険金支払額の試算を発表しました。そこでは支払額は全体で2兆円を超える可能性があり、損保各社の収益性低下の要因として危ぶまれています。なお、15号・19号ともに、昨年9月に近畿地方に被害をもたらした台風21号と同規模に達する想定です。

これら数多くの災害により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、尊い命を落とされた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合では10月17日に台風19号への対応として、佐藤幸雄理事長を本部長、小林信夫副理事長を副本部長（現場統括）とした、水害対策本部をNGP本部に設置しました。そして被害の大きかった地域を中心にヤードを7ヵ所設置しました。また、千葉県で平年10月の月間降雨量に達する雨が半日で降り、多くの被害をもたらした千葉県豪雨が10月25日に発生したことを受け、その復興支援のため茂原ヤードを設置し、合計8ヵ所のヤードで復興作業に当たっています。各ヤードと責任者は次の通りです。

- ・多賀城（宮城県多賀城市）ヤード
中村昌徳相談役
- ・伊達（福島県伊達市）ヤード
青木金也副理事長
- ・郡山（福島県郡山市）ヤード
藤原庸正副理事長
- ・須賀川（福島県須賀川市）ヤード
藤原庸正副理事長
- ・いわき（福島県いわき市）ヤード
小林信夫副理事長
- ・佐野（栃木県佐野市）ヤード
塩谷剛史理事
- ・中野（長野県中野市）ヤード
藤村博志理事
- ・茂原（千葉県茂原市）ヤード
金子治樹理事

NGP本部では、提携損害保険会社からの冠水車両引き取りの依頼を各ヤードに指示すべく、連日の対応に当たっています。そして本部からの指示を受けた各ヤードでは、NGP組合員と本部スタッフが協力し、ディーラーや修理・整備工場、個人宅における被災車両引き取りなどの復興支援に臨んでいます。

今回の災害は広範囲に渡っており、すべての水没車の回収には時間がかかりますが、一つのヤードが終り次第、別のヤードの手伝いへ赴けるように迅速な対応を心がけています。我々 NGP協同組合は、被災地の1日も早い復興に微力ながら協力できるよう、今後も一丸となって復興支援に尽力してまいります。



いわきヤード。限られた敷地を活かすため、協定後の車はそのつど移動させる



水没車の車内。今回の水害の凄まじさがうかがえる



水没車から回収された濡れた車検証やリサイクル券は一枚一枚ていねいに乾かす



茂原ヤードの様子。甚大な被害となった千葉県の引き取りには膨大な時間を要す

第46回東京モーターショー 2019開催

12年ぶりに100万人を超える来場者で大盛況

第46回東京モーターショー 2019が10月24日から11月4日までの12日間、東京ビッグサイト（青海・西・南展示棟）、MEGA WEB、シンボルプロムナード公園などにおいて開催されました。

「OPEN FUTURE」をテーマとした会場は、有料エリアと無料エリアを混在させるなどこれまでのモーターショーと違う形式で行われました。また、自動車以外の業界

からの企業も多く参加し、自動車だけでなく「未来の暮らし」を想起させる展示が多く見られ、新しい東京モーターショーの姿を感じさせるものでした。

一方で、変革期の最中である自動車技術に関しては、世界的に高まりつつある環境規制に対応した技術や、自動運転車を目指したセンサー類、そこに関わる制御システム、MaaSを見越した通信技術など未来を

想定したテクノロジーも披露されました。

開催当初は、前回同様多くの輸入車メーカーが出展を見合わせたこともあり、入場者数のさらなる減少が懸念されていましたが、最終的に130万900人と前回の約77万人を大幅に上回る入場者数となり、大盛況のうちに幕を閉じました。



スズキ

コンパクトPHEVコンセプトモデル「ワクスボ」(写真)を参考出品。ボタン一つでリアの形状が変化し、クーペ、ワゴンを選ぶことが可能。また、2代目ハスラーを想起させるハスラーコンセプトなども出品した



スバル

同社初となるコネクティッドサービスを搭載した新型「レヴォーグ」プロトタイプ(写真)を世界初公開したほか、現行モデルの生産終了を記念した特別仕様車で555台限定抽選販売の「WRX STI ファイナルエディション」などが展示され注目を浴びた



ダイハツ

「イコイコ」(写真)、「ツムツム」、「ワイワイ」、「ワクワク」など可愛らしい名前のコンセプトカー4種類を公開したほか、モーターショー閉幕後に名称発表となった「ロッキー」なども展示された



トヨタ

「モビリティのテーマパーク」をコンセプトにブースを展開。東京ビッグサイト内のブースでは量産車展示は行わず、モビリティ未来を想起させるコンセプトモデルを多数展示。1人乗りに特化した個室モビリティ「e-4me」(写真)などを参考出品



日産

EVによるクロスオーバー SUV「アリアコンセプト」(写真)、軽自動車のコンセプトカー「IMk」を世界初公開。また、発売から50周年を迎えた「GT-R」、「フェアレディZ」の記念モデルも展示し人気を博した



ホンダ

日本初公開のEV「Honda e」(写真)のほか、4代目となる「新型フィット」全5タイプが世界初公開された。また、同社のバイクCBシリーズの60周年を記念し、歴代モデルなども展示された



マツダ

「人(あなた)と共に創る」をテーマに、同社初の量産EV「MX-30」を世界初公開。同車は観音開きドアが採用されているほか、インテリアにはコルクが使われている。これは同社の創業がコルク製造業だった所以である



三菱

バギータイプの電動コンセプトSUV「マイテックコンセプト」(写真)と、今年度中の発売を予定する「スーパーハイライト軽ワゴンコンセプト」を世界初公開したほか、「エンゲルベルクツアラー」を日本初披露



メルセデス・ベンツ

電動モビリティを包括するブランドであるEQ、ダイムラーが展開するレース系ブランドAMG、EVブランドへの移行を表明したsmartなど幅広く紹介。なかでもアジア初公開となったEQブランドのコンセプトカー「ビジョンEQS」は多くの来場者の目を引いた

日整連、第22回全日本自動車整備技能競技大会を開催

「その先の、技術へ」をスローガンに、 全国の整備振興会から代表選手が集う

Topics

日本自動車整備振興会連合会（竹林武一会長、日整連）は11月9日、東京ビッグサイト（東京都江東区）において第22回全日本自動車整備技能競技大会を開催しました。

同大会は自動車整備士の技能向上や交流を深めるとともに、整備事業の公共性と業界の教育訓練・技能錬磨の姿勢を広く社会に示すことを目的として、2年に一度開催されています。

開会式で挨拶に立った竹林会長は、「自動車整備業界においては、車の新技術への対応、自動車整備士不足への不安など、さまざまな課題を抱えています」と、業界の現状に対する認識を示しました。その上で「現在、自動車整備業界に求められていることは、確かな整備技術を基に高度な故障診断技術を習得し、お客様に信頼されるサービスを通じて、まさにカードクターとしてお客様の抱える問題に的確に対応して、顧客満足度の高いサービスを提供することです」と、整備業界の社会的役割を改めて強調しています。そして出場選手へ向けて、「整備業界における先導的な役割を果たすとともに、都道府県を代表する整備士という誇りを持って、日ごろ培われた実力を遺憾なく発揮し、正々堂々と競技されることを期待します」と、激励の言葉を送りました。

競技では、全国の整備振興会から51チームが参加し、2人1チームで1年定期点検整備をベースにした点検整備と故障診断をする実車競技（配点700点）、車両の点検整備に必要な一般的な技能を審査する基礎競技（配点100点）、顧客への問診、対応、結果説明をロールプレイング形式で行うアドバイザー競技（配点200点）に

臨み、3種目の合計点数を競いました。

課題にはトヨタ・シエンタ（P17系）のガソリン・前輪駆動車が用いられ、スターターリレー系統、バキュームスイッチングバルブ系統、ドアミラースイッチ系統、冷媒圧力センサ系統に設定された故障や、エアクリーナーエレメントの汚れ、バックアップランプの不灯などの不具合箇所への対応力が問われました。



開会式の様子



競技会場



2人1チームで日ごろ培った技術と知識を競った



優勝した神奈川チーム。渡辺優樹氏（中央）、池田誠司氏（左）

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和元年10月： **2,643t**



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和元年10月 **1.7t**

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

自検協、平成31年版「わが国の自動車保有動向」を発表

自動車検査登録情報協会はこのほど、平成31年版「わが国の自動車保有動向」を公開しました。

それによると、2019年3月末時点での軽自動車を含む自動車保有台数は、前年同日時点の81,563,101台より226,217台多い81,789,318台でした。

そのうち乗用車は185,667台多い61,770,573台、貨物車は2,084台多い14,384,930台でした。さらに乗用車の内訳を見ると、普通車が381,425台多い19,268,854台、小型車が469,527台少ない20,176,826台、軽四輪車が273,769台多い22,324,893台となりました。

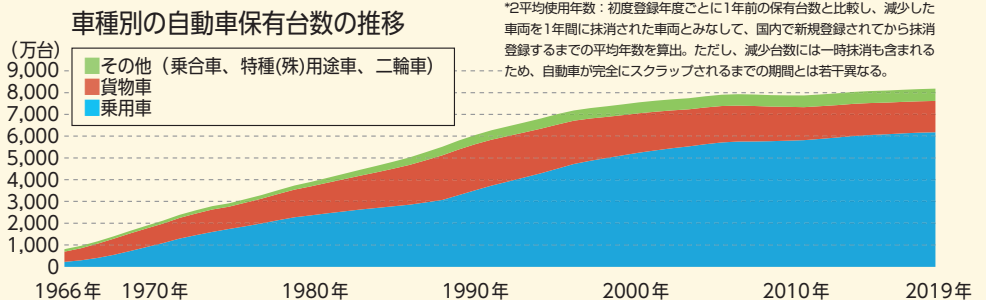
平均車齢*1（軽自動車を除く）は、乗用車が8.65年で前年より0.05年長期化し、27年連続して高齢化するとともに25年連続で過去最高齢を更新しました。車種別で

は、普通乗用車が8.16年と前年より0.04年長期化（最高齢を5年連続で更新）、小型乗用車は9.12年で0.09年長期化（同28年連続で更新）、貨物車（軽自動車・被けん引車除く）は11.42年で前年より0.01年長期化（同27年連続で更新）と、いずれも過去最高齢となりました。

平均使用年数*2（軽自動車を除く）は、乗用車が前年より0.02年長期化して13.

26年となり、過去最高を記録しました。車種別では、普通乗用車が同0.07年短期化し13.17年と4年ぶりに減少した一方、小型乗用車は同0.08年長期化し13.31年となり、4年連続で増加しています。一方、貨物車（軽自動車・被けん引車を除く）は同0.45年長期化し15.17年で、こちらも過去最高となりました。

*1平均車齢：国内でナンバープレートをつけている自動車が初度登録してから経過年の平均。
*2平均使用年数：初度登録年度ごとに1年前の保有台数と比較し、減少した車両を1年間に抹消された車両とみなして、国内で新規登録されてから抹消登録するまでの平均年数を算出。ただし、減少台数には一時抹消も含まれるため、自動車が完全にスクラップされるまでの期間とは若干異なる。



NGP組合員 かわら版

多田自動車商会、「三木金物まつり2019」に出展

廃車王サービスや自動車リサイクル部品の 品質・環境性能を紹介

兵庫県三木市が主催する「三木金物まつり2019」が11月2・3日、三木山総合公園（同市）で開催されました。金物の展示・販売だけではなく、ステージパフォーマンスなど各種イベントが催された会場には、2日間で16万人を超える来場者が訪れています。

NGP組合員である(株)多田自動車商会（兵庫県三木市）は、同イベントに毎年

出展しています。同社ブースでは、廃車買い取りサービス「廃車王」をはじめ、NGPの各種サービス及び取り組みを紹介しました。また物品販売による売上金は、今年も神戸交通遺児をみまもる会へ寄付しました。

さらにブース内には白い車両を用意し、来場者に向けて今年発生した台風19号の被災地へ向けた応援メッセージの書き



込みと募金を呼びかけました。温かい応援メッセージとともに寄せられた募金は、被災した各地へ寄付されています。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東海	アーク株式会社	移転	〒481-0041 愛知県北名古屋市九之坪寺領53 しんこうハイムA207 TEL0568-48-7577 FAX0568-48-7578	2019年10月23日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生する CO₂ 全てをカーボンオフセット（相殺）した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。